

研究機関名：東北大学

受付番号： 2016-1-337
研究課題名：肺結核症患者における抗結核薬血中濃度と NAT2 遺伝子多型の関係と、インターフェロンガンマ遺伝子多型に関する検討
研究期間 西暦 2014 年 10 月（倫理委員会承認後）～2017 年 10 月
対象試料 <input type="checkbox"/> 病理試料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検試料（対象臓器名 _____） <input checked="" type="checkbox"/> 血液試料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）
上記試料の採取期間 西暦 2011 年 10 月～2014 年 3 月
意義、目的 現在の日本においては、排菌を有する肺結核症の患者に対しては、リファンピシン（RFP）とイソニアジド（INH）を含む内服薬による治療が標準化学療法として行われている。この標準化学療法では、RFP450mg/day、INH300mg/day と、どのような患者に対しても画一的な投与量となっている。その一方で、抗結核薬の治療効果の目安となる患者の喀痰抗酸菌塗沫陽性持続期間は、患者によって大きく異なるという事実がある。薬物代謝にかかわる遺伝子を解析し、抗結核薬の投与量を検討するのが本研究の目的である。 また、ヒトが結核菌に感染した際に産生されるインターフェロンガンマ（IFNG）にはコード遺伝子の SNP によって、表現型が High-Releaser (HR) と Low-Releaser (LR) に分類されることが解っている。これも併せて、抗結核薬の血中濃度並びに NAT2 遺伝子多型と併せて検討する。
方法（他の研究機関に試料・情報を提供する場合は、その旨も記載してください） 本研究では、既に匿名化された遺伝子検体及び抗結核薬の血中濃度を含む対象者の臨床情報を、必要とされる手続き則って取得済みである。したがって、本学においては取得済みの遺伝子検体から NAT2 遺伝子と IFNG 遺伝子の多型を調べ、抗結核薬血中濃度との関連を検討する。NAT2 遺伝子多型の解析は、時間の短縮のため株式会社 BML に委託する。本研究の対象者は 2011 年 9 月から 2014 年 3 月までに福島県立医科大学において肺結核症で入院加療を行った患者である。遺伝子検体は福島県立医科大学から所定の手続きに則って本学に移送する。
問い合わせ等の窓口 〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院 総合感染症科 大島謙吾 E-mail: koshima@med.tohoku.ac.jp TEL022-717-7373 FAX022-717-7390